

徳島市中心市街地活性化基本計画の次期計画策定について

1 概要

現在の中心市街地活性化基本計画終了後も中心市街地の活性化に取り組むため、次期基本計画の策定に着手する。次期基本計画の策定にあたっては、まずは、長期的に目指すまちの姿を示す「ランドデザイン」を定めた上で、今後5年間で取り組む具体的な事業を示す「基本計画」を策定する。

2 基本計画の現状

現行の基本計画では、ランドマークの喪失等の中心市街地を取り巻く課題に対応するため、「人と人とがつながり、新たな挑戦や投資が生まれる街」をコンセプトに、「来街者数の増加」・「回遊者数の増加」・「居住者数の増加」を目標として事業を実施してきたが、令和8年度末の目標値達成は困難な状況である。

目標指標	基準値 (R2)	前年度 (R6)	最新値 (R7)	目標値 (R8)	目標値 達成見込
【来街者数の増加】 ランドマーク施設来館者数	2,441千人	3,307千人	3,489千人 (増↗)	3,741千人	見込まれる
・阿波おどり会館	196千人	570千人	741千人	657千人	
・アミコビル	2,245千人	2,737千人	2,748千人	2,734千人	
・新ホール	—	—	—	350千人	
【回遊者数の増加】 まちなか歩行者通行量	15,697人	13,911人	13,607人 (減↘)	20,807人	達成困難
【居住者数の増加】 まちなか居住者数	7,546人	6,968人	6,849人 (減↘)	7,567人	達成困難

3 基本計画の課題

- (1) 基本計画の事業が行政主体のものが多く、民間事業者が挑戦及び投資する機会が十分に創生できていない。
- (2) どのような来街者・回遊者・居住者を想定しているか、また、中心市街地に誘導するためにどのような事業が効果があるかを選定したうえで取組を集中する必要があった。
- (3) 基本計画の期間が5年のため、5年後の目標値の達成に向けて事業に取り組んだが、5年後以降のビジョンの共有が十分ではなかった。

4 次期基本計画策定に向けた取組

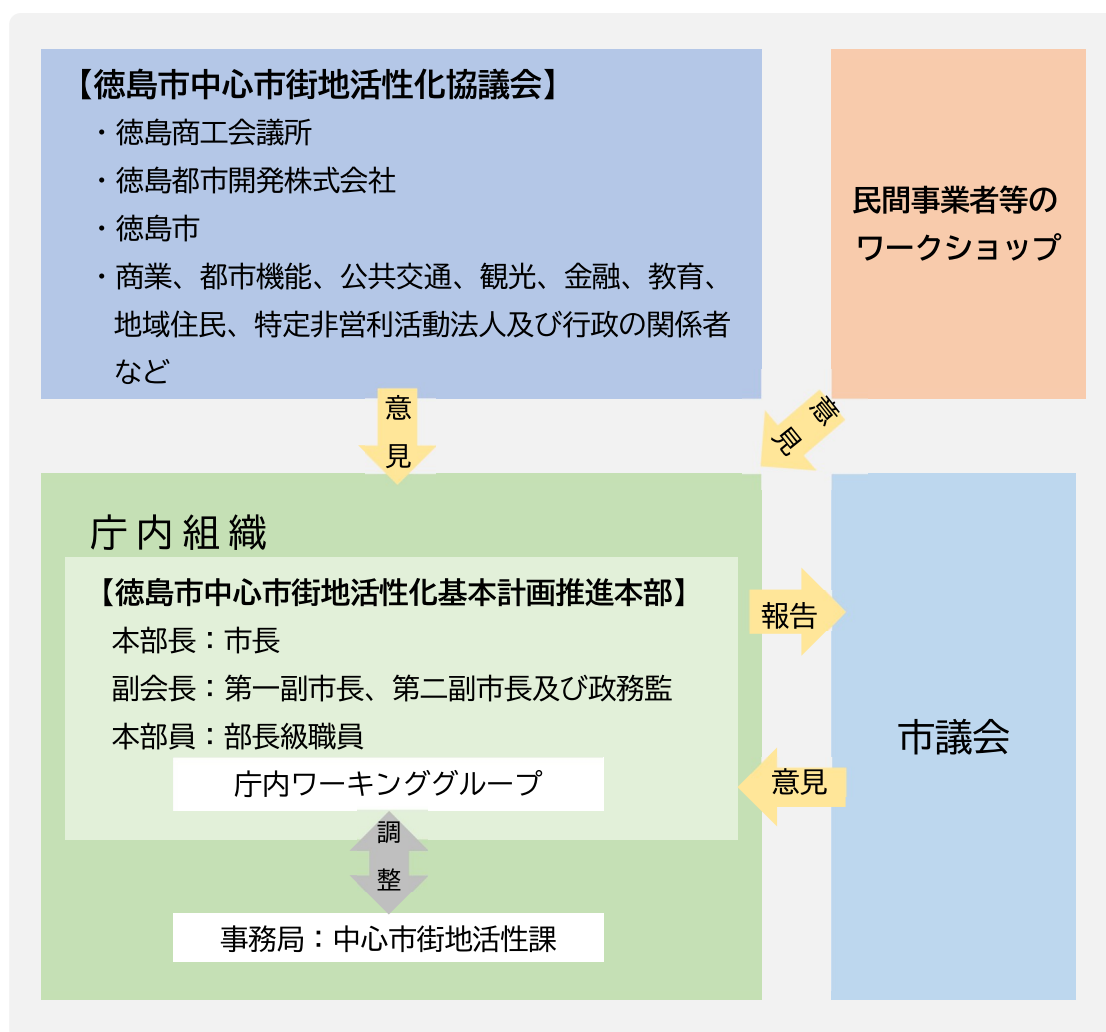
(1) 中心市街地グランドデザインの策定

5年間の計画期間では来街者・回遊者・居住者の想定及び対象事業の選定が目指す中心市街地の姿の実現に繋がっているのかを共有できていないため、20～30年後の中心市街地の未来像であるグランドデザインをまず定め、現在から5年間で何を取り組んでいくかを基本計画に策定する。

(2) 基本計画推進体制の構築

行政だけでなく民間が主体となって事業を推進するため、事業に挑戦及び投資する意欲がある民間事業者と行政が協議できる体制を構築する。

5 グランドデザイン・基本計画策定体制



(1) 市内ワーキンググループの設置

令和8年4月から、徳島市中心市街地活性化基本計画推進本部の下部組織として同設置要綱第5条に基づき、「中心市街地活性化ワーキンググループ」を設置し、中心市街地のグランドデザインや次期基本計画の検討にあたっている。

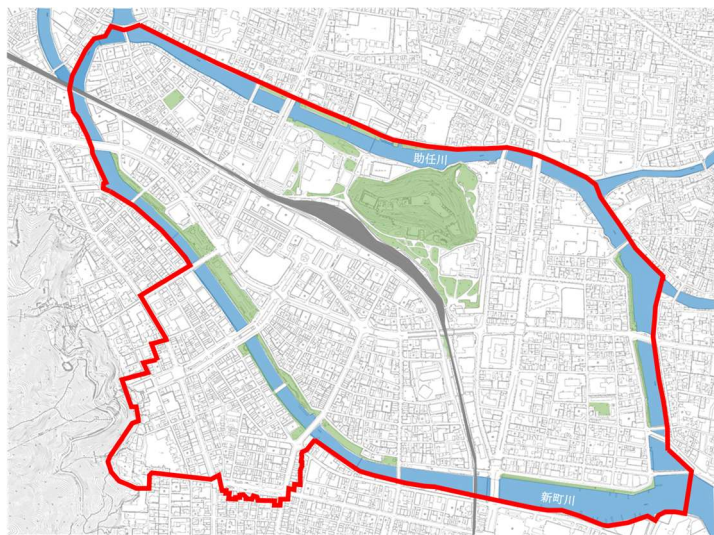
(2) 庁外の策定体制

中心市街地のグランドデザインや次期基本計画の策定過程において、中心市街地活性化協議会をはじめ、中心市街地のエリアでまちづくりに携わる多様な関係者との意見調整や合意形成を図るために、民間事業者等で構成するワークショップを開催するなど、市民の意見もグランドデザインや次期基本計画に反映させていくこととする。

6 対象区域

基本計画における中心市街地は、新町川と助任川に囲まれたひょうたん島の愛称で親しまれる「内町地区」と、古くから本市における商業の中心地として、数多くの商店街や飲食店などが立地している「新町地区」の一部で構成する。

本エリアは、徳島市立地適正化計画に基づく中心都市機能誘導区域の中でも中核となるエリアである。



7 スケジュール(予定)

- 令和 8 年度 中心市街地グランドデザイン策定
- 令和 9 年度 次期中心市街地活性化基本計画策定
- 令和 10 年度 次期中心市街地活性化基本計画開始